



ワイワイ語ろう！私からの発信
PART

男女共同参画というけれど・・・
・・・わたしの本音

報 告 書

日時： 2007年1月28日（日）

13：30～16：00

場所： 豊川市社会福祉会館（ウイズ豊川）視聴覚室

豊川男女共生ネットみらい

概 要

豊川男女共生ネットみらい

名 称	ワイワイ語ろう！私からの発信 PART
テ - マ	男女共同参画というけれど・・・わたしの本音
日 時	2007年 1月28日(日) 13:30～16:00
開 催 場 所	豊川市社会福祉会館(ウィズ豊川)視聴覚室
後 援	愛知県 愛知県教育委員会 豊川市 豊川市教育委員会 豊川市社会福祉協議会
参加人数	34名 (女性21名 男性13名) (10代4名 20代3名 30代1名 40代3名 50代12名 60代8名 70代3名)
目 的	<p>21世紀の日本の最重要課題である男女共同参画社会づくりにおいて、今、男女共同参画意識は市民レベルまで浸透しつつあります。</p> <p>豊川男女共生ネットみらいでは、過去3回「ワイワイ語ろう！」を開催し、意識啓発をしてきました。80代から高校生までの男女が同じテーブルにつき、本音の語り合いを続けています。ここでは、受身学習からの脱却を図り、参加者全員が気持ちや考えを交換し気づいた点を話し合うという、互いに学び合い成長していくことを目指しています。豊川男女共生ネットみらいでは、こうした試みを継続することによって、男女共同参画社会づくりの担い手が育っていくものと期待しています。</p> <p>今回は、今までの成果を踏まえて、さらに内容を深め、自分(個人)の意識が社会問題や社会現象と密接に繋がっていること(Personal is political.)に気づくことを目的とします。</p>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2006年4月1日NHK放映『日本のこれから～聞こえていますか、女の怒り、知っていますか、男の本音』のうちの『男社会で傷つく女性たち』を視聴。 ・ コーディネーター、ファシリテーターのもとで、KJ法などを採り入れながら、グループで視聴した感想や意見を話し合う。 ・ 映像場面にある会場アンケートについて、参加者も答え、ポストイットに書き込むなどの意思表示をする。 ・ 各自の意見を書き込んだポストイットを、B紙に貼り付け、それを見ながら、グループ発表をする。 (これは、報告書に記録として残し、行政懇談会や次回のとよかわ男女共同参画プラン改正時の提言として生かす。) ・ コーディネーターは、参加者の様子を見ながら、内容を深め、全体進行をする。 ・ ファシリテーターは、グループ内のそれぞれの思いや考えの引き出し役をする。 <p>当日までに、実行委員会を開催し、コーディネーター、ファシリテータ</p>

	<p>一、みらいスタッフによって企画内容の研究を重ねた。 (実行委員会についての記述は p.3)</p>
講師 コーディネーター	<p>山本和子(豊川市男女共同参画懇話会会長 愛知大学講師 豊川男女共生ネットみらいアドバイザー)</p>
ファシリテーター	<p>第1グループ 大井悦子 第2グループ 神谷典江 第3グループ 小山喜美子 第4グループ 杉浦弥生 第5グループ 竹本幸夫 第6グループ 鳥山芳男 (各ファシリテーターの報告 p.10~p.16) ファシリテーターはファシリテーター養成講座(※)修了生と「ワイワイ語ろう!私からの発信」においてファシリテーター経験のある者。 *ファシリテーター養成講座『風通しのよい人間環境づくりのために』 第1回 7月22日 豊川男女共生ネットみらい主催 自分の気持ちと相手の気持ちを大切にすることは 聴くということ 第2回 7月29日 豊川市パートナーシップ推進出前講座 新しい人関係づくり ファシリテーターの役割</p>
タイムスケジュール	<p>13:30~ 開始あいさつ 趣旨説明 講師・ファシリテーター紹介 13:35~ 講師の話 「男女共同参画に関する世界・日本・愛知・豊川の流れと問題点」 13:50~ ビデオ視聴 「男社会で傷つく女性たち」 14:20~ グループでの話し合い (コーディネーター・ファシリテーターのもとで) 15:25~ グループ発表 15:50~ 講師、まとめの話 16:00 お礼の言葉 閉会 16:05~ アンケート記入 解散</p>
配付資料	<p>男女共同参画社会形成の過程 男女共同参画基本計画第2次のポイント 中日新聞 2006/12/31 記事『改正男女雇用機会均等法』 『女性の再チャレンジ』</p>
期待される効果	<p>1. 男女共同参画社会への認識を深める。 2. 自分の考えや気持ちをこの場で発言することで、自分を社会的存在として自覚できる。 3. 個人的な問題が社会現象や社会問題と密接に繋がっていることに気づく。 社会にはいろいろな個性があるという認識も持ち、それぞれに対応できる力を養う。 社会的関心をもち、社会的に行動を起こす力を養う。 男女共同参画社会づくりの将来の担い手になる。 4. 豊川男女共生ネットみらいは、この企画を毎年継続することによって、男女共同参画社会づくりに貢献する。</p>

実行委員会の経緯

事務局対応

第1回実行委員会(第4回理事会) 9/28 ウィズ豊川研修室2

「ワイワイ語ろう! 私からの発信」の趣旨確認
昨年と同じやり方(講師の話 ビデオ視聴 ワークショップ 講師の話)
ビデオ視聴「日本のこれから」(討論部分をカット、映像部分のみ)
場所決定 ウィズ豊川視聴覚室(48人定員)(文化会館、勤労福祉会館とれず)
日時決定 1月28日(日)

ファシリテーターに呼びかけ
山本和子先生、講師依頼

第2回実行委員会(第5回理事会)(この回からファシリテーター参加) 10/12 ウィズ豊川視聴覚室

「日本のこれから」(討論部分を抜いたもの)視聴
視聴部分選定3案
テーマ検討4案 「私」自身の社会参画の仕方 人を傷つける社会のありよう、システム
「みんな平等になっているね」という社会 次世代のために
グループでの話し合い2案 すべてのグループ同じテーマ 各グループ違ったテーマ

ボランティア市民活動センター機関紙12月1日号掲載文提出

第3回実行委員会 10/25 ウィズ豊川研修室3

ビデオ視聴部分3案から絞込み(映像部分のみ)
「育休取得その時男は」「保育園に入れない」「仕事と家庭こうして両立」
テーマ決定 「まず、人前で自分を出してみること」 → 「わたしの本音」
グループでの話し合い方法決定 「すべてのグループ同じテーマ」
ファシリテーターの役割
当日資料について・・・吹き出し漫画(空白部分は参加者が書き込む)セクハラ事例

後援依頼(愛知県 愛知県教育委員会 豊川市 豊川市教育委員会 豊川市社会福祉協議会)
企画書作成
ちらし作成

第4回実行委員会 11/29 ウィズ豊川研修室3

ビデオ視聴決定(映像部分+討論部分)「男社会で傷つく女性たち」
グループでの話し合いの工夫 ファシリテーターの役割
参加者に向けて・・・グループ発表の機会 資料配付 講師の話

第5回実行委員会 12/4 ウィズ豊川視聴覚室

テーマについて・・・曖昧なので当日、グループでキーワードを見つける作業をする
決定ビデオ視聴 グループでの話し合いとファシリテーターの役割

ちらし配付(各施設・みらい会員・各県立高校・豊川高校・豊川市議員・生活活性課
生涯学習課・各町男女共同参画担当・豊川市社会福祉協議会)

第6回実行委員会(午後と夜に開催、参加しやすい方に参加) 12/21 ウィズ豊川視聴覚室

ファシリテーターの役割 ワーク予行演習 タイムスケジュール検討 アンケート検討

第7回実行委員会 1/18 ウィズ豊川視聴覚室

山本先生との打ち合わせ 役割分担
当日配付資料・・・男女共同参画の流れ 男女共同参画基本計画 中日新聞 12/31 記事

第8回実行委員会 2/10 勤労福祉会館第3会議室

総括

総 括 (第8回実行委員会まとめ 2007/2/10)

1. 「ワイワイ語ろう！私からの発信」の意義と今後

豊川男女共生ネットみらいは、豊川市主催豊川市男女共同参画フォーラムの中で「みらい企画」と銘打って「ワイワイ語ろう！」を2003年度から毎年開催してきました。2006年度(今年度)には、フォーラム事業は廃止されましたが、市民、老若男女が一堂に会して、同じテーマの下で話し合う場を保証することが大切と考え、今回、豊川男女共生ネットみらい主催で開催しました。

アンケートからもわかるように、「ワイワイ語ろう！」の場が、他の人との出会いによって社会の多様性を肌で感じたり、意外な自分に気づく場であることがわかります。また、そういう場が楽しいと言う人もいます。

すべての人が対等に尊重し合える社会にするには時間がかかります。「ワイワイ語ろう！」を経験した人は、ここでの体験を自分の中で熟成し当事者であることに気づき、そういう社会づくりのための発信者となります。そのために、今後も継続して事業展開をするつもりです。

今までは、参加者が集まるという形式をとりましたが、「出前ワイワイ」といった、こちらから地域、高校など学校に出向いて開催するという方法も模索します。

2. テーマとビデオ視聴と山本先生のお話

情報共有のためのビデオ視聴では、視聴部分の選定に時間がかかり、最終的に「男社会に傷つく女性たち」となったのは、ちらし配付からひと月もたっていました。この具体的な内容をちらしに記載できなかったことは、参加呼びかけに大きな影響をもたらしてしまいました。参加者の中に、内容がよくわからず参加するのが不安だったという意見がありました。

テーマについてもビデオ視聴とからめ実行委員会で何度も検討しました。これも難航し、本音を語り合うことが「ワイワイ語ろう！」の原点であるとし「男女共同参画というけれど・・・わたしの本音」に落ち着きました。昨年の「結婚しない男女の増加」というテーマと比較すると、ぼけた曖昧なテーマになってしまったことは否めません。

山本和子先生はこうした状況にあることを把握してくださり、当日は男女共同参画の理念と基礎知識をわかりやすくお話しくださいました。そのお陰で、参加者に主催者側の意図を明確に伝えることができました。前日の「女性は産む機械」という柳沢厚生労働大臣の発言を取り上げてくださったことも、参加者にとって男女共同参画についてさらに深く考えるきっかけになったと思います。

3. 男女共同参画推進とファシリテーター

豊川男女共生ネットみらいの2006年度の活動テーマは、「勇気をかたちに・私からの発信」。今回の「ワイワイ語ろう！私からの発信 ~男女共同参画というけれど・・・わたしの本音」は、この活動テーマを深めるとともに、「とよかわ男女共同参画プラン社会像第1項『ひとに差別なく思いやりを大切にすまち』」づくりを市民の側から担うものです。

この目的に近づくためには、男女がジェンダーに縛られることなく平等な意識を持つことができるか、さらに弱者に優しい視点を持つことができるかが、まず、市民は問われることとなります。

ファシリテーターは、その場において自分は中立な立場を保ちながら、市民のこうした学びや気づきを支援する役目を持っています。また、安心して話すことができる開放的な雰囲気づくりにも心掛けねばなりません。

この重大な役割を10名のファシリテーターが担いました。7月のファシリテーター養成講座(2回講座)受講から8回の実行委員会(10月から2月)までの長期に亘り、ファシリテーターは多くの労力を費やしました。その成果は、当日の会場の雰囲気から推し量られましたが、参加者の多くから好評をいただいたこと(参照:アンケート集計)から、ファシリテーターの影の功労は明らかです。

参加者の人数により6名しか活躍できませんでしたが、今後、男女共同参画推進機運をさらに高めていくために欠かせない貴重な人材となると考えます。

4. 参加者・人数把握・託児

参加 34名 女性 21名 男性 13名

開催前は、豊川市の後ろ立てがなく、多くの参加者が望めないのではという不安を抱えていました。しかし、自主的な参加者が多かった点は今までの積み重ねの成果だと考えています。フォーラム時には主催者だったため参加できなかった行政の方の参加が4名、市議員2名の参加は喜びでした。豊川宝飯の県立高校(宝陵、国府、豊川工、御津、小坂井)と豊川高校に呼びかけをしましたが、当日参加は4名でした。時期の選定も含め、更なる高校との連携が必要であると感じています。

過去3回と同様、どういう状況でも対応できるように準備をし、事前に人数把握はしませんでした。このやり方には、だいぶ慣れてきましたが、今回、遅刻者が多かったことには戸惑いました。

託児希望者(きょうだい2名)1名ありましたので、子育てネットにお願いしました。が、当日になり子どもが発熱しキャンセルとなりました。

5. 今後の企画アイデア

グループ分けの工夫

今回、くじ引きによって参加者をグループ分け。意図的なグループ構成(男女、年齢)をしましたが、今後さらにより充実した話し合いとするためには、工夫が必要となります。

例えば a 年代別

b 関心別(「男社会で傷つく女性たち」なら、学校・家庭・地域とグループ分け可能)

c 課題別(テーマを一つに絞らないやり方)

ディベート方式

本音がしゃべりにくいテーマなら、いい方法です。

事例発表の場とする

6. 会場

市民は、豊川市社会福祉会館(ウィズ豊川)よりも、豊川市文化会館や豊川市勤労福祉会館の方を身近に感じています。ちらしには地図の記載をしてありましたが、戸惑う人もいました。遅刻してくる人が多かったのはそのせいです。時期決定を早めに行い、速やかに文化会館か勤労福祉会館を予約すべきでした。

7. 時期

過去3回が1月で既に定着していることを考え、今回も1月に設定。しかし、高校生が試験の時期になってしまうことを考えると他の時期の検討も必要かもしれません。市内の年間行事について情報収集をすることも大切です。

8. タイムスケジュール

今回も「話す時間が短かった」「やっと話が煮詰まったところで終わってしまった」などの意見が出ていました。今回情報共有部分(ビデオ視聴)が30分でしたが、今後、この時間配分と内容をどうするか考える必要があります。

9. ちらし

今回、ちらし裏面に、参加・不参加にかかわらず男女共同参画についての意見を求めました。1名からファックスがあり、その質問には、山本先生がお話の中で触れてくださいました。

アンケート結果

参加34名中24名

今日の話し合いで気づいたことがありましたか？

どんなところでしょうか。

- ・ ワイワイ語ることによって他の人を知ることができ、自分を知ることができた。(? 男性)
- ・ グループ分けは男女年代でバラバラにしたほうがよい。(40代男性)
- ・ 世代によって認識に大きな違いがあることがわかった。意外と若い人でも古い感覚の人がいることを知って驚いた。(40代女性)
- ・ 啓発(講演・セミナーなどで)で人の心を動かすのは難しいですね。若い男性には自然と女性を社会・家庭で平等にみなす意識は根づいているのではないのでしょうか。今日は意識を変えるというよりも、みんなのいろいろな意見を聞いたことが良かった！勉強になったし、自身の成長になった。人の意識を変えるより、具体的に社会を変えてほしい！社会・職場が働かせ過ぎ。こんなに働くのは日本人だけだ・・・。私は今の労働で育児の両立は男性の協力があってもバテないか心配。政治家が提言すべき！(20代女性)
- ・ 私のグループにいらした女性の方々は、今まで見て感じてきた方と違った。でも、だからといって自分の母を不幸とは思わない自分であることに気づけた。何かというと、お父さんがやさしいからかな？と思うし、お母さんがどんな小さいことも喜んでくれるからだと思います。人はきれい事より本音を好きになると思います。いろいろな年齢差や性別の方々との出会いと本音の話し合いで「自分のこれから」を見つけられそうです。(10代女性)
- ・ 自分と真反対にいる人と話すことによって違う価値観を深く知ることができ、大変めになった。(20代男性)
- ・ 家事労働の価値が低い。労働＝貨幣価値。自立＝精神的に自立している人が少ない。(60代女性)
- ・ 何のために働くのか。(70代男性)
- ・ グループの中で話が出た、「自立」について。結婚する時に一人の男、女として結婚していれば、今、こんなに苦しまずにすんだのかなあとも思う。(40代女性)
- ・ 若い人には、私たちの年代と違って家庭の中で少しずつ共同参画が根づいているのでは・・・と感じました。(50代女性)
- ・ 男女共同参画社会の実現のためには、多くの市民に意識してもらうための企画が必要。(60代女性)
- ・ この人ならと信じて投票した人がとんでもない人だったということ話を話した人がいた。選挙時に具体的に政策(マニフェスト)を語ってほしいということ。本当に皆さん、賢い意

見をもって発表された。私も身近な人との人権の話し合いがさらに深まるよう、また、行動に責任を持ちたいと思いました。 (60代女性)

- ・ 男女共同参画をあまり意識せずに自然の対応できいいと思います。 (50代男性)
- ・ 新しい顔が少ないなあ。見た顔が多いなあと思った。 (60代女性)
- ・ 遅れてきたので、あまり話せなかった。また改めて頭から参加したい。 (10代男性)
- ・ 女の子がバカにされている(ビデオ)なんて、知らなかった。 (10代女性)
- ・ まだまだ、男女共同参画って、難しいなあと感じました。 (50代女性)
- ・ 男女の性別で物事を考えるのではなく、人間としてみていくことが大切であると言われた方がありました。本当にそうだと思います。 (50代女性)
- ・ 講師の話から、改めて男女共同参画の意図が良くわかった。 (50代女性)
- ・ 資料の年表が、カラーで見やすく、国、県、市、民間と流れが十分につかめた。 (50代女性)
- ・ ちらしから、今日の内容の把握ができず、参加することに不安だった。が、講師の話を聞いたりビデオを見たり、みなさんの意見を聞いたりして、自分にも思うことが多くあることに気づいた。 (50代女性)
- ・ 自分が意外と保守的で、変化することを怖がっていることに気づいた。 (50代女性)

今日の話し合いは難しかった。どんなところでしょうか。

- ・ まじめに話し合うテーマが・・・やはり男女共同参画について話し合うのは硬い。 (50代女性)
- ・ 男女共同参画のこと、あまり知らなかった。 (10代女性)
- ・ いろいろな問題は、ひとつひとつ本音がある。問題を洗い出すことが大変。 (60代女性)
- ・ 楽しく話し合いができました。(本音で) (60代女性)
- ・ とてもスムーズでした。 (60代女性)
- ・ ワイワイからキーワードを見つけ出そうとするところ。 (50代女性)
- ・ 自分の知らないことが多すぎる・・・ (40代女性)
- ・ 課題に幅があり、ポイントがつかめない。 (70代男性)
- ・ 話し合いをする上で、自分が前提としていたことが相手にとっては前提でない。あるいは、その反対の価値観が前提になっていた・・・ということの難しさを感じました。 (20代男性)
- ・ 意見・考え方の違う人が、まとめていくことは難しかった。 (60代男性)
- ・ 難しくはなかったです。為になった。 (20代女性)
- ・ 働いたことのない私には世間の苦しみをわかってあげられないことが一番難しく、唯一わかってあげられなかった。 (10代女性)
- ・ 高校生から話を聞き出したり、質問したりが、うまくできず、もう少し話が聞きたかった。残念！ (50代女性)
- ・ なかなか、自分の思い込みや枠をはずすことができなかった。そのためか、自分と違った意見を素直に受入れることができなかった。 (50代女性)

その他、いい足りなかったこと、提案などありましたら、どうぞ！

- ・ ビデオで、「女性がそんなに世の中を変えたいなら、一票を投じて変えればいい」という発言があり、それを受けて、20代の女性が「はなから女性をばかにしている」と言っていました。この女性の気持ちをみんなで話しあってみたかったです。（50代女性）
- ・ 女性がもっと一票を投じてと言うが、女性が女性を納得させたり、話し合いをする場所、時間がない。毎日の生活（仕事、掃除、洗濯、食事の仕度、後片付け等）を、差し置いてまでやることには、勇気と犠牲がいる。まず、夫という人に理解してもらおうのが大変！（50代女性）
- ・ こういう、みんなで話し合ったりする機会が広がると、いいと思いました。もっと多くの人が気楽に参加できるような工夫がいろいろありますね。（50代女性）
- ・ 辛いことを辛いと言える場を設けることが、今できる一番大切なことだと思う。人は豊かになるたびにワガママになるものです。でも法によって定めるからといって人は変わるものではないと思います。でも、ルールは大切なんですね。けどやっぱり私は社会の上に立てる人ではないから。どんなルールがあってもなくても今日のことを成人して思い出して、“男だから、女だから”の観念のない人であれたらいいです。今日、素敵な方と出会えただけでも、今日来てよかったと思います。（年上の方と本音で語れただけで、私は楽しかったです。）（10代女性）
- ・ 話し合いとして、なかなか難しいテーマだった。グループが全体的にレベルの高い話になって高校生は楽しくなかったかな。（50代女性）
- ・ 来年度の音羽町の講演にはぜひ！ぜひ！来てください。（20代女性）
- ・ 足りないことはありませんでしたが、自分の考え方・意見を出せる若い人に出会い、心強くなった。それぞれの考え方に触れ楽しかった。勉強になった。今日は素晴らしい一刻を有難うございました。（60代男性）
- ・ 教育は30年。法的整備がなされてもそれが定着するまでには100年も200年もかかるというのが現状かと思われます。・男女の別なく人間として同じスタートラインに立って始めることが大切。ビデオはプラスとマイナスの部分で激論。もっともっとこんな討論の場をつくっていくべきと思われます。（60代女性）
- ・ グループごとに課題を決めてやってはどうか。（70代男性）
- ・ もっともっと話す時間があっても良い気がします。（40代女性）
- ・ グループですべての方が言いたいことを充分言うことができました。今回私たちのグループ内で意見がとても出しやすかったです。次回はさらにプラスして『具体的な取組として何が出来るか？』を考えていただいたらどうでしょう。（60代女性）
- ・ 社会を少しでも良い方向に変えるためには、行政に対してマニフェストのしっかりした人選をしなければ変わらないと感じました。今日は参加でき、とても良かったです。（50代女性）

——— 聞こえていますか女の怒り、知っていますか男の本音 ———

(男女共同参画というけれど...わたしの本音)

講師・コーディネーター 山本和子

初対面のグループで討論するという「ワイワイ語ろう」も4回目になったが、今回は「みらい」の単独主催であり一歩踏み出した企画といえるだろう。準備段階で「誘導しない」姿勢を再確認しそれを貫いた。昨年問題が露呈した「やらせ質問」「依頼質問」のタウンミーティングに対して、本当の市民討論の場を実現した点でも評価したい。

『共通理解の為の話』

1946年の国連・女性の地位委員会の設置から今日までの、世界～日本～愛知県～豊川市の「男女共同参画」に関する動きをまとめた年表を使って全体の流れと問題点にふれた。それは、20世紀の後半、「人権」特に「女性や子ども、開発途上国」といった弱者の人権に注目して動き始め、21世紀も「人権確立」をめざした改革が続いていることと、日本の場合は「急速な少子高齢化」、つまり、このままでは労働力不足に陥り、年金の財源不足をはじめ経済が破綻しかねないという大問題を抱えているということである。配付された資料(新聞記事)からもこの問題が読み取れる。続いてVTRの全体像を紹介し、視聴に移る。

『VTR視聴』

NHK番組「日本のこれから」の「知っていますか女の怒り、聞こえていますか男の本音」から「男社会に傷つく女性たち」を視聴しながらポストイットに疑問点や意見等をメモする。

『グループでの話し合い』

1時間余、ファシリテーターのもとで、B紙上に各自のメモを分類して貼る等の作業や話し合いをおこなう。作業が話し合いに活気を与えているようだ。勿論メモなしのグループもあるが各グループにまかせての作業なのでそれも良い。中程で、番組で行ったインターネットアンケートの内容と結果を紹介したが、話題に取り上げたグループが多いようであった。因みに質問内容は「妻を激怒させた夫の一言」で、結果は1位が「誰が食わせてやっているんだ」、2位が「女のくせに」、3位が「手伝ってあげようか」であった。

『グループ発表』

発表内容およびグループのキーワードについては、各ファシリテーターからの報告に任せることにする。発表者をグループ全員で支えるという雰囲気、1時間ほどの間に出来上がったのはとても良かった。キーワードが出た各グループにはボードに書いてもらってから発表を開始した。これは他のグループの話し合いについて考える時に役立つと思う。

『まとめの話』

開始時に比べて、「気がついた今が動き始める時」という空気が濃くなり、それがキーワードとして出たのではないだろうか。

事前に届いた質問のうち「男女共同参画とは」と「国の基本計画、第1次と第2次のちがい」については共通理解部分で簡単に触れた。3つ目の「男女それぞれできることは参加するのか・・・消防団への参加」は、グループで話題になる可能性もあるので質問事項を先に紹介しておいた。

国際社会において、ジェンダー主流化・・・(政策決定、計画・立案、意思決定に男性のみならず女性の視点・経験・知識等を取り込むことで、男女双方にとって有意義なものとする。・・・)これは常識であり、小泉前総理大臣の「防災協カイニシアティブ」の基本方針の中にもこの「ジェンダーの視点」が明記されている。国際社会へ呼びかけるなら、先ず国内で実行されなければならないだろうし、また阪神淡路大震災や海外の災害時に起きた「女性の二重被災」等を教訓にしなければならないと思う。

今朝の新聞に出ていた「女性は子どもを産む機械」という柳沢厚生労働大臣の人権を無視した発言は基本部分に関わる大きな問題で、男女共同参画社会をめざす私達は全ての面でもっともっと人権に敏感でありたいと思う。

報告 第1グループ

ファシリテーター 大井悦子

参加者 5名 女性3名 男性2名
20代1名 30代1名 40代1名 50代1名 60代1名

キーワード ???????

グループの年齢構成は各年代1名で、年代差の意見が出るかと思ったが、未婚20代男性から「女性が専業主婦でなぜいけないのか、縄文時代より男は外、女は内(家庭)であったのだから自然ではないか」との発言があった。

他の参加者は、パートナーと同様に外でも働いている現実の生活から意見が述べられた。男女の別なく、自分のエサは自分で取ること、経済力を互いに持つことで発言力が対等になってゆくことなど、女性より発言あり。

違い(女は子どもを産めるが男はできない)を踏まえての役割分担、働き方の別があってもよいのではないかとの男性の発言から、生物的な性差はあるが、性別でくくる区別でなく、個人で見ても平等にチャンスを与えられたいと女性。昔よりは確かに女性も選べるようにはなった。がんばれば女性も認められつつあるが、がんばっていない男性が昇格していくのはなぜか。

働きつづけることを前提の発言になる人々に対して、20代男性の「自分は働き続けるので妻となる人は家庭で家事を専門としてほしい、そうでなくては困る」という意見が平行し、グループではキーワードと言えるものが出なかった。

しかし、最後に高年の方が「社会の一員として働くのは当然、経済力も大切。それを支える家庭のあり方として、家事は互いに負う仕事、各々が分担し、その仕事を自分の仕事として責任を全うすることで、参加でなく参画になるのでは」と発言され、ひとつのまとまりになったと思う。

グループ発表で、20代男性は、意見の全く異なる人が話し合いによって意見をすり合わせていくこと、人の意見に耳を傾けることの大切さに気づいた。こうして意見を闘わせていくことで、20年後30年後の自分はどのように何を見出しているかが、楽しみとのこと。

このことが「ワイワイ語ろう!」であり、「参画」の第一歩になったかと感じた。

報告 第2グループ

ファシリテーター 神谷典江

- 参加者 5名 男性 1名 女性 4名
年代 10代1名、40代1名、50代2名、70代1名

参加者の意見、発言	<p>日曜日くらいは、家事に参加するようになった。(男性) このままの暮らしが居心地良い。 家が農家なので、母が低い存在になっていると感じる。 男子が弱く、生徒会は女子ばかり、先日先生が「みんな、女か！」といわれ嫌な気分になった。 ビデオでの、和田さんの発言について、凄く怒れた。一言手伝おうかはおかしい。 自分は、格差・偏見を感じたことが無い。 政治家になろうとは、思わないけれど、近くの議員さんに言い、少しずつ社会を変えていきたい。 県や市が変えようとするのは、有難い。 法律では、人は変えられない。気持ちを変えることだと思う。</p>
発表内容	<p>変えるではなく、変わっていくこと！ キャッチボールがプレーボールになる時、それが今！</p>
ファシリテーター所感	<p>参加者の人数が少なく、思い通りのファシリテーターとしての動きがとれませんでした。しかし、最後にはグループでの目標が立てられ、とても良かったと思っています。2グループでは、みな本音で話げできたと感じました。</p>

報告 第3グループ

ファシリテーター 小山喜美子

参加者：女性4名 男性3名（うち高校生2名 40代1名 50代2名 60代2名）

- ・ 「“女だから”とって仕事を辞めることをすすめるのはいけないと思う」という女子高校生の意見から話し合いを始めた。学校・家庭生活の中でそのような感じたことはないということであったが、「女性は女性でやれることがあると思うのに、そういう面を皆があまり見ていないと思った」とビデオの感想を述べた。
- ・ 育児休業を40年前に1年間取得したという女性から「おそらく私が制度を使った第1号でしょう」という発言があり、職場復帰することなく仕事を辞められたそうだ。40年たった今も子育ての環境は、殆ど変わっておらず「“適材適所”で一人の人間としての能力を發揮できる社会になってほしい」「男女の違いをなくせ！ではなく、一人ひとりを大切にすることが大事」との思いが語られていた。
- ・ 弱い立場の者の存在について、女性に限らず、子どもたちにおいても、学校へ行けていないから、仕事をしていないから“自立していない”と見られがちなることを、本当にそうなのだろうか？という問題提起がされた。
- ・ 「“お金を稼ぐ人が偉い”という考えが根本にあるように思われるが、それが自立していることにつながるのか!？」
- ・ 「何もしていないように見える彼らのほうが、自分に向き合い、悩み、葛藤しながら、たくさんのことを考えている」との声が上がった。

キーワード 自立（精神的・経済的）って何だろう・・・？

- ？ 個人が確立されること、自分の意見・考えを持つこと、一人でも生きられる力を持つことなどの意見が出された。
 - ？ 「自立すると生きづらくなる」との一言もあった。
 - ？ これまで教育において自立することを教えられてこなかったという点も考えねばならない大切なことであろう。
 - ？ また、学校では「勉強さえできれば何をしても許されるというようにとれることがある」との男子高校生の発言もあった。
-
- ・ 天皇制にも話は及び、「天皇制は社会のシステムであり男尊女卑ではない」と言ったことに異議を唱える声もあった。が、「ただの制度に過ぎない」ということで「システムを変えるためには女性がもっと政治の中へ入り込んでいく必要がある」と話し合いが進んだ。

ファシリテーター所感

- ・ 参加者は普段あまり深く考えていなかったことを考えさせられ、他人の意見によって自分を再確認できたり、社会の現状と自分とのつながりに気づいたりして話すことができた。とても有意義な会だった。
- ・ こういう他人と交流する場があることによって、自分を深めいろいろなことを考えるチャンスを持つことができるのだと、思った。「ワイワイ語ろう！私からの発信」は、個人にとどまらず社会的にも大切な事業だと思う。
- ・ グループ内の人数が7名だった。誰もが均等にしゃべることができた。7名が適当な人数だと実感した。

参加者 5名 全員女性(20代2人、50代3人)

ビデオを見ながらポストイットに書き込みして、ビデオ終了後同様な意見をまとめて話し合いをした。

思い

- ・ 女性も働きたいとおもっている
- ・ 女性だけが家事、子育てをするのではなくお互いに協力しあうことが大事
- ・ 家庭での家事育児が男女平等でなければ、職場での男女平等は無理。女性にハンディがあるに決まっている。意欲能力は男女同じなのに。
- ・ 女が激怒した言葉で「女のくせに・・・」と言われると「やったー」と思うようになった自分がいるという発言に対して考え次第なんだと・・・自分も見習ってみようと思うと意見もでた。

職場

- ・ 職場で女性の進出の機会はあると思う、しかし、家事の負担がある女性はその機会を逃してしまう。遠慮がち。
- ・ 企業側で戦力にならないと断念している事
- ・ 仕事か子育てかを選ぶべきという意見。
- ・ 女性総合職という言葉があるのが駄目。
- ・ 女性が男性の職場を奪っている??? (テレビの中の発言)
- ・ 働き方において男性差別がある。(残業ばかりで家族との時間が持てない)
- ・ 企業では平等に対するトップの姿勢よって変化する。
- ・ 「男女共に働ける社会」を造るためには、日本の企業は働きすぎ、働かせすぎ。6時には家に帰り、週2日は家族と共に過ごせるような職場の実現。

思いがあり、職場においての現状・・・どうすれば???

社会基盤の整備が必要ではないかという話し合いになっていった。

キーワード 実現するために社会基盤の整備

- ・ 私たちの出来ることの一つとして選挙がある。
- ・ 候補者に自身が実行できる事を具体的にわかりやすく説明してほしいと提案する。
- ・ 女性の数が多いのだからガタガタ言っていないで変えられるよう行動する。
- ・ 具体例を理論的に説明してその積み上げを多くの人に知ってもらうようにする
(実行してみて成果があったとの声)

社会基盤の整備をするために自分の出来ること

- ・ 家庭での教育において差別しない。
- ・ 家庭の中から人権の認め合いを実行、身近な人たちの人権に敏感になる。
(原点に戻ってしまう)
- ・ やっぱり基本は家庭かな～。
- ・ 家事も育児も協力しあってできる相手を見つけて結婚したい。

ファシリテーター所感

ファシリテーターをはじめて経験してみて、お話を聴きだすことをもっと勉強したいと思いました。まして、いろいろな考え方、感じ方を文章にして多くの人達に伝えることの難しさを改めて感じています。5人のグループの中でもそれぞれ意見があり見方も違って、私自身とても勉強になりました。

報告 第5グループ

ファシリテーター 竹本幸夫

- 参加者 男性 3名 女性 3名

10代1名、60代2名、50代2名 70代1名(年齢構成は推測です)

- 男中心の企業のあり方には問題があると思いますか？ 問題がある 1名、仕方ない 2名、中間 1名

参加者の意見、発言	<p>1 講師の講演とビデオ「男社会で傷つく女性たち」に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none">男女共同参画がきちっとできているとは、どういうことか？(男性 60代)ゆったりとした時間の意味は？(男性 60代)70歳以上になって、私の家内はゆったりしている。(男性 70代)おばあちゃんは商売を手伝い、家事もしていたが、「自分の時間が欲しい」と言っていた。(女性 10代)うちは商売しているが、仕事をし終わって家事をすることは当たり前(女性 60代)女性は大変と言っても、今は簡単に離婚してしまう。(女性 60代) <p>2 「男中心の企業のあり方をどう思う。」の設問に対する意見</p> <p>「問題がある」と答えた人の意見</p> <ul style="list-style-type: none">今後の就職のことを考えると問題がある。(女性 10代) <p>「仕方ない」と答えた人の意見</p> <ul style="list-style-type: none">今は仕方ないのではないか。(男性 70代)男性中心は問題があるが、男中心だと思ってない。(女性 60代)将来は、解決しなければいけない。(男性 70代) <p>中間と答えた人の意見</p> <ul style="list-style-type: none">問題があるとも思わないし、仕方ないとも思わない。(男性 60代) <p style="text-align: center;">キーワードの決定 今は仕方なくても、将来は！</p> <p>3 将来に向けて、どのように男女共同参画社会を築いていくか？</p> <ul style="list-style-type: none">将来のことだから若い人の意見を尊重すべき。(男性 60代)相手を選ぶとき、料理のできる人はポイントが高い。(女性 10代)率先して、家事を手伝うだんなを見つける。(女性 10代)自分の家庭から進める。(男性 70代) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><ul style="list-style-type: none">男女共同参画は、就業環境に問題あり。(男性 70代)大学に行くからは、ちゃんと就職したい。(女性 10代)このような集まりにくる人は、ごく一部で、一般の人は男女共同参画のことを知らない。男女共同参画の教育を進めるべき。(女性 60代)自分たちでできるものと、そうでないものがある。(男性 60代)</div>
-----------	--

	<p>上の四角枠内は、国、県、市が、企業の協力を得て進めるべきもの。</p> <p>4 視聴者のカチンときた言葉に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「手伝ってあげようか」は、もし家で言われればうれしい。 (女性 60 代) ・ 手伝うのが当たり前、口に出すな (女性 10 代) ・ 掃除などきれいにしたければ自分でやればいい。(男性 60 代) ・ 「うるさい。手を出すな。」と言われる。(男性 70 代) ・ 年代によって、どうしても考え方に差が出る。(男性 60 代) <p>5 発表者の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな人が居るので楽しい。発表は、これからのある若い人で。(男性 60 代) ・ チーム名も決めましょう。(男性 60 代) 「年寄り、若者ごちゃ混ぜチーム」
発表内容	<p>「男中心の企業のあり方をどう思う。」の設問に対する意見は、「問題がある」が 1 名、「仕方ない」が 2 名、「中間」が 1 名で意見が分かれたが、年代により考え方に差が出た。まとめとしては、今は仕方なくても、将来は解決しなければならないということで、キーワードは、「今は仕方なくても、将来は！」とした。</p> <p>将来に向けての解決策は、「料理のできる人はポイントが高い。」、「家事のできるだんなを見つける」とか、「自分自身の家庭から進めよう」と言うことになった。</p> <p>それから、就職の問題とか、男女共同参画教育については、国、県、市、企業が進めるべきものとなった。</p> <p>カチンと来る言葉については、 の「手伝ってあげようか」は、「言われればうれしい」という人もいるし、「手伝うのが当たり前」という意見もあり、年代によりかなり見解に差が出た。</p>
ファシリテーター 「GokuGoku」の感想	<p>第 5 グループは、グループワークスタート直後からエンジン全開。当初遠慮気味の 10 代女性も、乗せられちゃって、みんなで「ワイワイ、ガヤガヤ」。キーワード決定は、全グループの中で一番早かったのではないかな。</p> <p>みんな一杯しゃべったし、時間に余裕もあったので発表用にメンバーのひとりが B 紙もまとめとくれ、私は楽チンでした。</p> <p>「あやちゃん」若者一人、孤軍奮闘、発表まで担当、 「石川さん」第一印象はおとなしそうに見えたのに、しっかりした意見、 「まっちゃん」最初から絶好調、B 紙までまとめてくれた、気のいいおせっかいおじさん 「康允さん」みんなの意見まとめ役、人の仕事とらないでサブでいろいろお手伝いいただいた「ほりちゃん」 皆さんのおかげで無事、ファシリテーター任務終了。「まっちゃん」が B 紙に書いたとおり「いろいろな人が居るので楽しい。」が率直な感想です。</p>

報告 第6グループ

ファシリテーター 鳥山芳男

参加者 6名 男性3名 女性3名 (年代 50歳以上 6名)

男中心の企業のあり方には問題があると思いますか。	問題あり	2名
	仕方ない	0名
	中間	4名

参加者の意見発言

1. 男中心の社会であることには間違いない
2. 仕事に対する能力の差は、男女の差によるものではなく、個人の能力の差異である。
3. 人間の幸せとは、いったいなんだろうか。
4. 男も女も互いに不満をぶつけているが、お互いに理解を深める努力をすべきである。
5. 現代は経済活動中心の社会。金儲けのみが最大の関心事である。
6. 社会の変化が速く、女性だけの問題ではなく、男性のニート、アルバイトなど雇用問題の見直しを考えるべきである。
7. 現代は女性の方が意識改革が速く進んでおり、男性は旧態依然とした行動である。男性の意識改革が必要である。
8. 今は男より女の方が能力がある。お互いに人間尊重で取り組むべきである。
9. 男女に関係なく社会や企業に必要な人間になるように頑張っていけば、必ず道が開けていくと思う。
10. 働き方の見直しをして自分の経験や個性を大事にした働き方をすべきである。

キーワード

本当の幸せとは何か

- ・ 社会情勢を踏まえて目標をどこにおくか。
- ・ 人間として何のために働くのか、そして、どんな暮らしをしたいのか。
- ・ 人それぞれであるが、自分の能力を踏まえて努力するところに、人生があり、幸せが生まれてくるのではないか。そこを自覚すること。

ファシリテーター所感

男中心の企業のあり方に問題ある。仕事の能力差は男女によるものではなく、個人の能力差である。戦後60年が過ぎ、個人の自由を強く主張する教育が行われ、大きく日本人が変化した。

そのためか、結婚する、子どもを産む、親を大切にするということは、『経済優先』の思想のもとで捨てられた。従って、『自己中心的な考え』が蔓延し、結婚しても子どもを産まない、親と同居しない、親の介護はしない。

それでは、私たちはどうすべきか。

キーワードは『本当の幸せとは何か』

金や物品からは得られない。それは家族や夫婦の思いやりから生まれてくる。その原点は「家族の絆」である。だから、「家族のとの生活を楽しむために働く」ということではないか。本当の幸せとは苦労して初めて与えられるものであると思う。

収支決算書

	項 目	予算額(円)	決算額(円)	摘 要
収 入	1. 一般会計	69,000	60,783	
	託児協力費	1,000	0	5人分
	報告書希望者	0	700	100円×7人分(当日参加者)
	収 入 合 計	70,000	61,483	
支 出	1. 講師関係費			
	(1) 謝金	20,000	20,000	
	(2) 旅費交通費	1,000	1,000	
	2. 広報費			
	(1) チラシ用紙代	1,000	732	
	(2) チラシ案内郵送料	9,000	10,720	
	3. 資料作成費			
	(1) 資料用紙代	300	296	
	4. 報告書作成費			
	(1) 報告書用紙代	1,200	1,184	
	(2) 報告書郵送料	10,000	10,700	講師、参加者、後援者等
	5. 会議費			
	(1) 昼食代	10,000	0	講師、ファシリテーター打ち合わせ
	(2) 茶菓子代	5,000	5,096	実行委員会(8回分)
	(3) 会議室使用料		765	勤労福祉会館会議室
	6. 託児従事者	4,750	0	託児従事者3人分
	7. その他			
	(1) 文房具	2,500	990	B紙、ポストイット、サインペン等
	(2) 予備費	5,250	10,000	ファシリテーター交通費
支 出 合 計	70,000	61,483		

「日本の、これから」
『聞こえていますか、女の怒り。知っていますか、男の本音。
～男女共同参画と言うけれど～』

熟年離婚の増加は問題か	アンケート1	男と女、どちらが得？
妻を激怒させた夫の一言	アンケート2	男は仕事、女は家事・育児・・・？
保育所に入れない	アンケート3	社会的支援の拡大は必要か？
男社会で傷つく女性たち	アンケート4	男中心の企業のあり方、どう思う？
育児休暇取得、そのとき男は？	アンケート5	男が育休を取る、賛成か不賛成か？
仕事と家庭、こうして両立	アンケート6	仕事中心の生活を見直すべき

会場参加：全国から50人男女半々

遥洋子(タレント・作家) 森田建作(俳優) 猪口邦子(少子化男女共同参画担当大臣)
倉田真由美(漫画家) 茂木賢三郎(キックマン副会長)

(注) 今回のワイワイ語ろう! 私からの発信 では、上記のうち「男社会で傷つく女性たち」(30分)を視聴しました。下記はそのテープ起こしです。

● 男社会に傷つく女性たち

働く女性専門外来の映像 ・川崎市関東労災病院、働く女性専門外来(5年前に設立)

- ・ 最近目立っているのが、職場に適応できず体や心の不調を訴える女性
- ・ 「会社に行くのが怖くなって、つらくてつらくて電車に乗ることを躊躇することが何回も続くようになって・・・」
- ・ 男性と同じように働いてもそれだけでは評価されず、ストレスが重なってうつ病になるケースもある。
- ・ 医師「女性を一人前としてあつかってもらえない、女性は管理職まであがれないという現実にはぶちあたってしまい、かなり期待されながら社会に送りこまれていった女性たちはうまく対応しきれなかったり、受け止めてもらえきれなくていろんな不調になっている」

この背景には男性中心に造られた企業の体質がなかなか変わらないことがある。

東京労働局雇用均等室の映像

- ・ ここには、毎日、昇進や待遇で差別されたり、出産を口実に解雇されたりした女性の訴えが寄せられる。
- ・ 雇用均等室が企業側に理由を聞いたところ、そもそも女性を戦力とみなしていない実態が浮かびあがった。「妊娠をいい機会だと思い、退職を勧めた」「女性社員は既婚者なので、仕事を辞めても困らないでしょう。」

人事担当役員Aの話 社名を明かすと取引に影響があるので、匿名を条件で話す。

- ・ 「女性には、はっきり言って責任のある仕事は与えられないのです。総合職をやりますということで採用したにもかかわらず、『いやあ、出張は行けないです』とか、晩の接待を断るとか、接待に連れて行くにしたりして『いやあ、私は飲めませんから』とか、なかなかそうしたことが男性と同じようにできないですね。会社の戦力にはならないです。」

ある女性の映像

- ・ 大学卒業後、設計事務所に初めての女性技術職として採用された。
- ・ 同期入社の男性が建築現場にどんどん出て行くのに、女性だというだけで図面をひく仕事しか与えられなかった。
- ・ 女性の話「男性のやるようなことも女性はできると思っていたので、社会人になってから

というのはすごくショックでした。」

- ・一人前として認めてもらおうと積極的に残業や出張も引き受けた。その後、結婚して出産。育児休業が終わるとすぐ、職場に復帰した。しかし、取引先からは、時間の無理がきかない女性だと不安をぶつけられた。
 - ・女性の話「『え！育児明けの女性が担当なの』とずばっと言われました。すごく不快感をあらわにして言われたので、これは見返さないとという意識がかなり強かったですね。」
 - ・会社ではミスのない仕事をめざし、家庭では家事や育児に追われた。夫は出張が多く、家事のほとんどは女性がやらざるを得なかった。職場でも家庭でも無理を重ねた結果、ストレス性の潰瘍や耳鳴りに悩まされるようになった。
 - ・女性の話「やってやれないことはないけどどんどん突き進んだ結果がだめだった。体がおかしい痛いつて悲鳴をあげて初めてストレスで病気になったんだという感じでした。」
- 人事担当役員 A の話
- ・「男はやはり仕事一本ですからね。女性は、はっきり言って軽い。失敗したら家庭に引っ込んだらいいわと。やはり企業はボランティアや遊びでやっているんじゃないですから、一人一人がもうけないとイカンし、そういう仕事をしてもらわなイカン。厳しいですよ。」

質問：男中心の企業のあり方には問題があるとおもいますか？

視聴者アンケート集計 1 問題ある 5 4 4 3 2 仕方ない 2 7 6 1

会場札上げ 1 が多いが 2 もかなりあり

会場討論

- (4 3 歳男 I) 2 ・働くということ、皆、誤解している。賃金体系や労働条件に向かって仕事するわけではない。漫画家の倉田さんと同じように、サラリーマンも付加価値の対価として給料をもらっている。V T R の「取引先が育児休暇明けなのと言う」のは、経済合理性でなく、不利な条件だったから。単純にそれだけの問題。職場の冷ややかに扱われるのは、自分が提供する付加価値が少なくなっているから。それに対して企業が他の人と同等な賃金を払わなければいけないという不条理があるからで、企業はやはり煙たがるという図式なんではないでしょうか。
- (三宅アナ) ・働く者の方に問題があるということですか。
- (4 3 歳男 I) 2 ・いえ、経済的側面から言っていない。育児休暇明けの方が仕事するときと同じパフォーマンスが出せていないということ。付加価値が出せていないということ。
- (2 3 歳男 K) 2 ・女性は入社してからいつ辞めてしまうのかわからない。出産となってしまうと女性は辞めざるを得ないという状況にあるので、ストーリー性のある大きなプロジェクトを任せるにはちょっと不安が残る。そうすると大きな責任がある仕事を任せるには問題があるので、現状はしかたなしなのかと思う。
- (4 2 歳女 L) 1 ・4 歳の子どもを育て働いている。先ほど、同じパフォーマンスじゃないのに賃金が同じだと言われたが、殆どの女性は見えないところでカットされている。それは時間的制約があり、同じ量のパフォーマンスさえできないからだと思う。女性が質的面で劣るかということそんなことはない。企業の使い方次第だと思う。
- (三宅アナ) 企業にとって女性はパフォーマンスが落ちるとい意見と企業に女性を使う方の能力がない、使い方に問題という意見が出た。
- (5 8 歳男 L) 2 ・女性の場合、子育てがあったり結婚したり、総労働時間が減ってくる。仕事が切れてしまうことがある。現実には生理休暇を毎月とる人がある。その時、本来なら家にいて休んでいなければいけないのに、遊びに行ってしまう人がいる。そういう女性の権利をどんどんとる人がいる。そう考えると、女性はパフォーマンスが落ちると思う。
- (遥) 1 ・ L さんの奥さまは専業主婦さんですか。
- (5 8 歳男 L) 2 ・そうです。

- (遥) 1 ・専業主婦という立場の方がいてくださるおかげで会社の経営まで這い上がれたわけです。職場の中で女性の地位を軽んじておられる経営者に限って、女性には家事育児があるからといって、自分の奥さんを専業主婦にしている。
- (58歳男L) 2 ・うちは育児休暇認めて全員復帰させています。
- (遥) 1 ・そうでなく、育児休暇があるから女性の労働力が落ちるという一辺倒な考え方が問題。子ども産んだら、女性は仕事辞めたくなるのでしょうか。辞めたい方もいるかもしれないが、辞めざるを得ない環境と周りの圧力があって辞めている人が多いのではないか。パフォーマンスが落ちる原因を女性がすぐ仕事を辞めるからと追求するのは違うのだと思う。
- (58歳男L) 2 ・そうですね。
- (51歳女M) 1 ・娘26歳。男の人と同じように残業、会社泊まり、しょっちゅうある。仕事したいから、しばらく結婚しないと決めた。出産結婚を会社の不利益だと正當に評価されないから、ますます少子化は進むし結婚しない人も増えると思う。
- (歳男M) 2 ・中小企業ではパフォーマンスを生み出さない女性を雇い続けることは實際的にできない。そういうことをすれば会社自体がおかしくなる。女性を排除するつもりはないが、そうせざるを得ないという会社が多いのではないかと思う。
- (倉田) 1 ・やすやすと仕事を辞めたり、結婚相手を捜すためだけに仕事をするという女性が一群いることは事実。そういう人と真剣に働きたいという女性をいっしょくたにされているのが、悲劇を生んでいるという気がする。
- (視聴者メール・独身女性から既婚女性に一言言いたい)
- ・職場が忙しいときでも常に家庭を優先するのは、やめてほしい。あくまでも仕事は仕事、家庭は家庭。プライベートを犠牲にして仕事をしっかりやっている女性まで一括りにされ「だから女は」と扱われ、悔しい思いをしています。
- (43歳女N) 1 ・総労働時間が短いというのは事実かもしれない。子育て中で働いている時間が短くても、とてもいい仕事をしている女性はたくさんいる。会社の仕事は人間の暮らしに役に立つために物を造ったりサービスを提供する。自分の生活を大事にせず仕事だけを一生懸命やってる人が、男性に限らないが人間の暮らしに役立つものが造れるのだろうかずっと疑問に思っている。自分の暮らしも大事にし子育てもし、それで仕事もするという人がいい仕事をするんだと思う。
- (64歳女E) 1 ・定年退職した男性にかかわる仕事をしている。彼らがざんげのように仕事をし過ぎたと言う。在職中は日本経済発展のためと張り切っていたが、今、何か残ったか、と。一番後悔しているのが、自分の子どもの成長さえ見届けられなかったこと。これから孫の成長にかけるとか、それを趣味にするとか、よその子どもを守る仕事をしたいとか、家事に燃えたいとか。仕事だけで燃えてきた男性のなれの果てが・・・どうだか、男性にもう少し考えてもらいたいと思う。
- (茂木) 1 ・競争激しい企業社会の中で女性は長時間働けないからだめだという意見もわかるが、その状況をほっといたら今の出生率をもっともっと下がる。今1.29弱。人口減少そのものは悪いと思わない。フランスやイギリス、ドイツは5000万か6000万。日本は1億2000万、3000万ともっともっと増えていかなければということは必ずしもない。あまりに急激な少子化高齢化が進んで人口構造がいびつになってしまうのが、問題。女性が安心して子どもを産み職場復帰するには、男性も育児参加というのはもはや生ぬるい、共同して子育てするというくらいに頭を切り替えていかなければ、今の少子化は止まらないと思う。
- (猪口) 1 ・育児休業を終えて企業に参加することが、企業に多様性をもたらして、結局は企業の発展に資するじゃないですか。
- (茂木) 1 ・と思います。もう一つ大事なことは、男性だからとことん夜の夜中まで働かせておいていいという考え方はおかしい。結婚相手見つける余裕ないし、幸い結婚してもくたびれて子どもを産もうという気にならない。子が生まれた後で今のように男はずっと

働いていたら、子育てに参加どころかその時間も生み出せない。

(視聴者からのメール・男性)・幼児が寝静まる時刻まで会社で残業しているために家庭に帰ると疲れ果てて家事どころではない。多過ぎる残業をなくしていかない限り、男性の家庭参加を望むのは無駄じゃないでしょうか。

(猪口) 1 ・男性の長時間労働も含めて働き方の見直しを推進しなければならない。

(三宅アナ)・スタジオの中には仕方がないと考えている方も結構いる。ここが一番根本的なことなのでしっかり考えなければいけない。

(65歳男N) 2 ・女性は仕事への情熱・意欲にかなりのハンディがある。体を張ることができるのかわかっていう感じ。今、男性のリストラ、二つの原因は女性の職場進出による男性の排除。こういう考えが起きても、決して不思議ではないと思う。

<会場から、驚きの声があがる。>・えー！・初めて聞きました・不思議です・・・

(三宅アナ)・ニートの問題がそこにあるとは思いませんが。

(35歳男Oスウェーデン) 2 ・日本人は仕事の量をみている。逆に仕事の質をみたほうがいい。女性の社員は創造力が非常に強い。日本の男性は深夜まで残業して頑張るが、強い企業をつくるのはそれだけでなく、新しいことを提言することが大事。多様性が大事。

(遥) 1 ・VTRで女は男のように働けないのではないかと、という経営者の発言があった。Nさんは、女性には働く意欲にハンディがあるという意見。高度経済成長期の時代、男性は意欲的に24時間仕事をするために専業主婦を必要とし家事育児子育てを頼み、仕事に没頭できたのではないですか。働く女性には専業主婦はついていない。自分がしなければならない。男並の労働なんかできるわけじゃないじゃないですか。

(39歳男P) 2 ・確かに言われたとおり。厳然とした男社会であることは間違いない。そこで本当にこれを対等に変えようと思ったら、今の女性はほんとに真剣に変えたい、男なんかには負けないとしないと変えられるはずないですよ。一挙両得に子どもは産みたい、仕事も子どももほしいと言う。でも、認められない。それで制度が悪いと言うのはその時点で失格。

(遥) 1 ・やっていますよ、今の女性は。何おっしゃってるんですか。男の人に負けないように頑張ろう頑張ろうって頑張っている女性が多いから、結婚する間も子どもを産んでる間もないんじゃないですか。

(倉田) 1 ・そういう女性もいるし、そうじゃない女性もいますね。

(39歳男P) 2 ・何か得ようとしたら何かを失わなければいけないですよ。これ、絶対なんですよ。

(43歳女N) 1 ・それ、おかしい。子育てか仕事かどちらか選べとよく言われるが、おかしいと思う。人間は働くこともするし、子どもを産んで育てるし、自分のくらしもするというのが普通の人間だと思う。必ずしも子ども産まなければいけないとは言っていないが、両方選べるのが普通の人間のくらし。どちらかに専念しなければならないというのは、ちょっとおかしい。専念して働く人しか雇わないという企業は、長い目でみたら発展しないのではないかと思います。

<拍手>

(猪口) 1 ・Oさんが言われた「創造」は、多様な考えがぶつかりあったり、相克があったりして生まれる。男性も女性も育児経験をしてまた社会に戻ってくる、そういう人を大事に企業は受入れることによって、葛藤もあるが新たな刺激を受けて新たな価値をもつことができる。多様性を許容する社会をつくっていかなければならない。同じようなバックグラウンドの同じような発想をする人たちだけが重役室に入っているいい考えは出ない。異なる経験を持ち込むことが発展の鍵じゃないですか。

(森田)? ・ちょうど今、日本は過渡期に来ている。昔は、女はこう男はこうだった。この2、30年で女性の社会進出が進んだ。でも、実際、日本は98%が中小企業。男女関係なくどっちが明日のための戦力になるかで、男、女でなく会社に必要な人間になるように頑張っていくと、自ずと道が開けていくと思う。

(猪口) 1 ・自分の経験や個性を大事にしたらいいと思う。

- (森田)? ・そうそう。
- (猪口) 1 ・それを肯定して、わたしはこういう新しい考えをいろんな経験をして持ち込む。もっと自信を持った方がいい。
- (森田)? ・自分はこういうことができるんだということをぴしっと示せばいい。今の企業家はそんなバカでない。やれよと言いますよ。だんだん、男女とも企業の中で貴重な人材になっている。すべてとは言わないが。日本国はだんだんそうになっている。
- (遥) 1 ・そうなってほしいけど、先ほどのVTRの経営者のような人がまだまだ多いと思う。
- (森田)? ・いるけれども、すごく変化しつつある。
- (猪口) 1 ・時代は変化しているが、もっとスピード感をもって、変化を後押しできるといい。VTRは10年前のものではないかと茂木さんと話したぐらい。
- (三宅アナ) ・さあ、どうなのでしょう。男社会の根深いものが見えてきたような気がするし、いや、もう変わりつつあるんだという意見もあった。
- (62歳男D)? ・女性の票数が多いんだから、世の中間違っているから変えたいと思っているんなら変えればいいんじゃないですか。

<スタジオ騒然>

- (21歳女O) ・はなから男性は女性をばかにしているような気がする。飲食店で男の人以上に労働基準法違反しているんじゃないかというぐらい働いた。ちょっと何か言ったら「女のくせに」と凄く言われた。そこで、私は女だから凄くバカにされたと思った。
- (62歳男D)? ・違いますよ。「女のくせに」というのは、あなたを認めたから。負けそうになった時「女のくせに」と男は言う。言われたら認められたと思ったほうがいいですよ。弱い女には絶対言わない、負けそうになると言う。

<スタジオ騒然>

- (28歳女H中国)? ・日本の社会は、会社の採用の時点から、女性を蔑視している。例えば、「女性総合職」という単語、中国にはない。日本には男性総合職という単語がないのに、女性に総合職と一般職があることだけで入社する時点で女性を分けているということ。一般職で採用された女性はがんばろうと思っても認められるチャンスもない。日本の企業は女性は男性と違うんだということを考えて採用している。そういうところを基本的に変えないと日本の社会は女性が働きやすい社会にはなることができない。
- (62歳男D)? ・誰が変えるんですかと言っている。多い女性が変わらなければいいのに、世の中が悪い、社会が悪い、制度が悪いと何べんも聞いた。
- (28歳女H中国)? ・でも、チャンス、いただけないですよ。
- (62歳男D)? ・多い票を駆使すればいい。そして不買運動でもすればいい。そういうことをしないで理屈ばかり言っていては、叶わない。
- (遥) 1 ・Dさんに伺います。女性がそこまで言うなら女性自身が頑張ればいいのかということですか。
- (62歳男D)? ・そんなことは言っていない。
- (遥) 1 ・Kさんは頑張りたいと思い、子ども産んで職場に出ようと思ったのに、保育所に入れないという落とし穴(制度)があった。実際、職場に復帰されていないわけです。頑張っていますよ、彼女は。
- (62歳男D)? ・そういう頑張りでなく、世の中を変える、社会を変えるということに女性の方が票が多いんでしょう。1票、持っているでしょうということを言っている。そういう努力をしないからいけない。
- (遥) 1 ・政治を動かすより、今日の自分の1日を動かすことで手一杯ですよ。

<スタジオ騒然>

- (62歳男D)? ・そんな見方をするからだめ。

<スタジオ騒然>

- (遥) 1 ・現実はどうじゃないですか。
- (三宅アナ) 変わるのか、変えられるのか、変わらないのか、ということだと思う。さらに議論進める。